

## 健康診断 検査項目説明

検査項目		検査内容
CT検査	胸部CT検査	ヘリカルCT装置にて、胸部X線検査よりも詳しい検査を行い、肺や気管、気管支などの病変を調べます。
	内臓脂肪検査	ヘリカルCT装置にて、へその周りを1スライスだけ撮影して、内臓脂肪と皮下脂肪を計測します。 ※へその周りを1画像だけになりますので、腹部臓器の病変は調べられません。
腫瘍マーカー ※1	AFP	肝炎や肝硬変、肝がんをチェックします。
	CA19-9	膵がんや胆のう、胆管がん等チェックします。
	CEA	大腸（結腸、直腸）がん、胃がん、膵がん、肝がん、胆道がん等チェックします。
	PSA（男性のみ）	前立腺がんをチェックします。
	CA125（女性のみ）	子宮がん、卵巣がん等チェックします。
	CA15-3（女性のみ）	乳がん等チェックします。
感染症	梅毒（RPR・TPHA）	梅毒に感染しているかをチェックします。
	HBs抗原（定性）	現在、B型肝炎ウイルスに感染しているかチェックします。
	HBs抗体（定性）	過去、B型肝炎ウイルスに感染していたかチェックします。
	HCV抗体	C型肝炎ウイルスに対する抗体の有無をチェックします。
その他採血	血清ピロリ菌抗体	胃がん、胃・十二指腸潰瘍の原因となる細菌の感染をチェックします。
	ペプシノーゲン （Ⅰ・Ⅱ・比）	胃がんの要因となる胃粘膜萎縮の状態を調べる検査です。 陽性であれば胃粘膜萎縮があると推測され、胃がんが発生しやすい状態にあるといえます。
	HbA1c	過去1～2ヶ月の血糖状態を示します。
	血液型（ABO式）	血液型を検査します。
	アレルギー検査	少量の血液で39種類の主なアレルギー検査が可能です。（卵、牛乳、小麦、豆・穀・種実類、甲殻類、果物、魚・肉類、ハウスダスト、動物、昆虫、樹木、草本類、空中真菌（カビ）、真菌その他 など）
	MCIスクリーニング検査 プラス	問診とアルツハイマー型認知症の原因の一つであるアミロイドβの蓄積を阻害するタンパク質や、アミロイドβが蓄積する前のリスクとなる血管の損傷や炎症に関連するタンパク質を調べ、MCI（軽度認知障害）のリスクを測定します。
	LOX-index （ロックス・インデックス）	血液中の酸化した超悪玉コレステロール「酸化変性LDL」と、それを血管の壁に取り込んで動脈硬化を進ませる「LOX-1」というタンパク質を測定し、動脈硬化の進行から、将来の脳梗塞や心筋梗塞の発症リスクを評価します。
その他	骨密度測定	骨の中にあるカルシウム・マグネシウムなどのミネラル成分が、どのくらいの量あるのかを計測します。
	眼底検査	瞳孔の奥にある眼底を、レンズを通して観察し、眼底の血管や網膜、視神経を調べる検査で、網膜剥離や眼底出血、緑内障などの目の病気を調べます。
	眼圧検査	房水という液体によって保たれている眼球内圧（眼圧）を測定する検査で、眼圧の高さで、高眼圧症や緑内障、網膜剥離などの目の病気を調べます。
	肺機能検査	呼吸器の病気が疑われるときや、肺の状態をみる時に行う検査で、スパイロメータという機械を用い、息を吸ったり吐いたりして息を吸う力、吐く力、酸素を取り込む能力などを調べます。
	胃透視検査 ※2	バリウムなどの造影剤を飲みながら、食道・胃や十二指腸などの形態や動き、粘膜の状態を観察して、がんや潰瘍などが無いか調べます。
	腹部超音波検査 ※3	肝臓、胆嚢、腎臓、膵臓、膀胱、前立腺、さらに子宮や卵巣が対象となります。
	頸動脈超音波検査	頸動脈の動脈硬化や狭窄度を評価し、脳卒中などの動脈硬化疾患の予防に役立ちます。
	頭部MRI検査	MRI検査にて、脳腫瘍や脳梗塞などの脳組織の異常や、脳動脈瘤などの脳血管の異常を調べます。
	大腸内視鏡検査 ※4	内視鏡（カメラ）で、大腸の中のがん・ポリープ・憩室などの疾患を見つけるために行う検査です。
	マンモグラフィ検査	乳房を圧迫して扁平させた状態でX線写真を撮影します。40歳以上の方は乳がんの罹患率が高いためマンモグラフィをお勧めします。また、乳腺超音波検査を合わせてすることでより正確な診断が可能となります。（妊娠中、授乳中または断乳後6か月以内、豊胸手術をしている方は当センターでは実施しておりません）
	乳腺超音波検査	超音波によって乳腺を映しだし、異常がないか調べます。20～30代の方にお勧めします。
	子宮頸がん検査	子宮頸部（子宮の入口）の細胞を採取し、子宮頸部に発生するがんおよび前駆病変（がんになる手前の段階）の有無を調べます。内診では子宮・卵巣の状態を調べます。
	経膣超音波検査	膣の中に超音波を発する細い筒状の器具を入れ、子宮・卵巣の状態や異常を、より詳しく調べます。
HPV（ヒトパピローマウイルス）検査	子宮頸がんの原因と言われているHPV（ヒトパピローウイルス）の検査です。子宮頸がんの検査と同時にを行います。	

【※1】 腫瘍マーカー検査は、がん診断に補助的に使用するものです。がんがなくても数値が基準値を外れることや、がんがあっても数値が上昇しない場合があります。血液検査だけで全てが分かるわけではありません。内視鏡や画像診断検査などと併せて検査されることをお勧めします。また、初回の数値のみで判断せず、経年的に数値の変化を見ていただくことが望ましいです。

【※2】 胃透視検査は、前日の食事は22時までに済ませていただき、それ以降は絶飲食をお願い致します。

【※3】 腹部超音波検査は、前日の食事は22時までに済ませていただき、水分（水かお茶）の摂取は可能です。

【※4】 大腸内視鏡検査は、受診日とは別日でご調整させていただきます。